



土屋功撮影

# 語る聞く

## 全日本おばちゃん党代表代行 谷口 真由美さん 43

# 世界救うおせっかい

「隣に困っている人がいたら助ける」、おせっかいな大阪のおばちゃんを自任し、セクハラに泣く女性たちのために声をあげてきた。加害者のオッサンを批判してやまない大阪国際大学准教授の谷口真由美さんと、大阪・堂島川沿いのカフェで待ち合わせした。

(編集委員 森恭彦)

おばちゃん党をフェイスブック上に創設したのが2012年。代表は置かず、自ら代表代行を名乗る。「オッサン社会に愛とシヤレとツッコミを入れるのが目的」なので、夫婦別姓訴訟に川柳と狂歌で物申したり、女性の人権を無視した政治家の発言を各国語に翻訳して拡散してみたり。

「男性中心のオッサン政治ではダメだ。もちろん悪いのは彼らだけじゃない。おばちゃんも『難しい』と、分かってへん」とオッサン任せにしてきた。その反省は、せなあかん」

「おばちゃんたちの井戸端会議のように議論しよう」と集まった。新聞記者や大学の研究者もいるけれど、普通のおばちゃんに分かりやすい言葉で、言葉は「愛と勇気とおばちゃん」が世界を救う。ゆくゆくは全世界おばちゃん党をつくりたい」

党員は現在、世界各地に広がり、6000人超。

アメリカの#Me Too

たにぐち・まゆみ 1975年、大阪市生まれ。父は近鉄ラグビー部の選手、コーチを務めた谷口龍平氏。大阪大大学院国際公共政策研究科修士。大阪国際大学准教授。朝日放送「おはよう朝日です」木曜日のレギュラーコメンテーター。著書に「日本国憲法 大阪おばちゃん語訳」など。

## 「一人じゃない」と勇気づけることが大切

「けることが大切」

今年秋開幕のラグビー・ワールドカップ日本大会をワクワクして待つ。会場になる東大阪市(旧近鉄)花園ラグビー場の寮でラグビー部の選手らと6歳から16歳まで暮らし、ラグビー愛は今も止まらない。

「父が近鉄のコーチ。母が寮母だったから。人生に必要な知恵は花園で学んだと思う。ラグビーは単なるスポーツではない。ラフプレーをすれば『君に品位はあるのか』と問われ、時間稼ぎにボールを回せば『情熱がない』。品位も情熱もラグビー憲章という、競技規則を適用する際の五つの基本原則に含まれている」

「背の高い人も低い人も足の速い人も遅い人も、それぞれポジションがある。NTTD(トモのスクラム)ハーフ、秦一平選手の身長は私と変わらない、175cm。それで素早いから、相手はつかまえない」

静岡県で来年度発足する7人制ラグビー女子チーム「アザレア・セブン」の広報担当理事に就任する。「選手はこれから集める

「私、だんだん何の人も分からなくなってきたけれど、そもそも博士論文のテーマはリアプロダクティブ・ライツ(性と生殖の権利)で、南アフリカまでHIV(エイズウイルス)感染の調査に行き、ゆくゆくは国際機関の職員になるつもりだった。それがいつの間にか大学の教員になって」

大阪大で「日本国憲法」の講義を担当。授業冒頭に設けた恋愛相談の時間が面白いと評判になった。「面白いのは学生。私、ひとを好きになることがあるのでしょうか?と真面目に質問してくる。恋は落ちるものでしょう、と私も真面目に答えるけれど、

「スマホの通話アプリ、LINEで告白する。男子が『オレ、ええ感じやし、付き合っちゃおう?』と送ると、女子が『それって違うんちゃう(笑)』と返し、男子も『だよー』。それでおしまい」

「自分が傷つく経験も、もつとしておけばいいのね。思い通りにならないことと、どう折り合いをつけるのか。社会に出れば不条理な、傷つくようなことだらけだから」

「困っている人を助ける、素直でかわいいおっちゃんになったらうれしい」というのが答えだ。テレビ各局でコメンテーターを務めている。取材は在阪局の朝の情報番組に出演直後だったが、疲れた様子もなく、「何でもようしやべるでしょう? 大阪のおばちゃんやもん」

### 取材後記

大阪のおばちゃん(おばちゃん)の定番、ヒョウ柄のブラウスで来てくれた。私事になるが、私と同業の妻が谷口さんの活動を手伝ったこともあり、前からの知り合い。それでも男性はおばちゃん党員にしてみられない。オッサンはダメ。ならどう